

果樹試験場かき・もも研究所成果発表課題 要約

1. ネット資材によるクビアカツヤカミキリの防除効果

(主査研究員 弘岡拓人)

モモの重要害虫クビアカツヤカミキリの防除技術として、異なる目合いと色彩のネット資材の産卵抑制効果を検証した。その結果、目合い 0.3mm の白ネットが供試資材中で最も有望な物理的防除資材と考えられた。

2. 「紀州てまり」のカキ灰色かび病の防除対策について

(主任研究員 大谷洋子)

カキ「紀州てまり」のカキ灰色かび病の果実発病に対して、フロンサイド SC またはフルーツセイバーの満開期散布は防除効果が認められ、開花直前と開花終期に 2 回散布すると開花直前の 1 回散布または満開期の 1 回散布より防除効果が優った。

3. カキ「中谷早生」果実の早期軟化抑制に有効な対策の検討

(副主査研究員 岡橋卓朗)

カキ「中谷早生」などの極早生品種で問題となっている早期軟化は、収穫後 3~5 日に発生する軟化であると考えられた。早期軟化抑制効果について、低透湿性段ボール処理は収穫時期によってばらつきがあり、1-MCP 処理は時期に関わらず安定的に抑制した。